



活動報告：3年生人権教育講演会

7月12日に、3年生対象の人権教育講演会を実施しました。『ふらっとライフ』第8章の著者である松波めぐみさんを講師に迎え、「障害とは何か？—障害となる事象について考える—」という学年の講演テーマに沿って、「「障害」とは？人権とは？」というタイトルでお話していただきました。松波さんは、障害者の労働や法制度の問題、差別などに関する学生からの質問・意見に丁寧に回答してくださいました。

「声をあげる」ためには、自分の「権利」を知っておくことが大切」・「障害のある人も、ない人も、同じ「権利」を持っている」・「障害のある人が堂々と「合理的配慮を求めてもいい」のは、ほかの人と同じ権利を持っているから」というまとめは、非常に印象的でした。



3年生の振り返り（10/31現在）

- この講演の内容を理解できましたか？
「はい」（94.4%）、「いいえ」（5.6%）
- この講演のテーマについて新しい発見がありましたか？
「はい」（70.6%）、「いいえ」（29.4%）
- 今回学んだことを、他の場面（他の人権課題）でも活かせると思いますか？
「はい」（88.9%）、「いいえ」（11.1%）

【学生からのコメント】（一部抜粋）

理解したこと

「障害者が生きにくい社会があるのは、健全者を基準にしている社会に問題があること。」

発見したこと

「障害があろうがなかろうが、周りを頼ることは大事。」

学びを活かす場面など

「一人ひとりに最適の環境をつくるという点が、外国人や出所した人などの人権課題に活かせると思った。」

1年生の「ダイバーシティと人権」より

1年生の前期科目「ダイバーシティと人権」では、人権に関する4コマ漫画づくりを夏休みの宿題にしました。

今回の作品は、「社会はマジョリティに都合よく作られているので、マジョリティには“特権”があり、マイノリティは不利な状況に置かれている」ことを、左利きを例に表現したものです。上記3年生の講演テーマにも通じるものがありますね。

マイノリティに不利な社会を、高専生の力で少しずつ変えることができる、という前向きな展開は、ぜひ他の学年の皆さんにも紹介したいと思ったので、作者の許可を得てここに掲載します。

